平成３０年８月２８日（火）中日新聞　朝刊　１４面

若者の目線で袋井観光ＰＲ

静岡理工科大で地域学講座

ＡＩやＳＮＳ アイデア提案

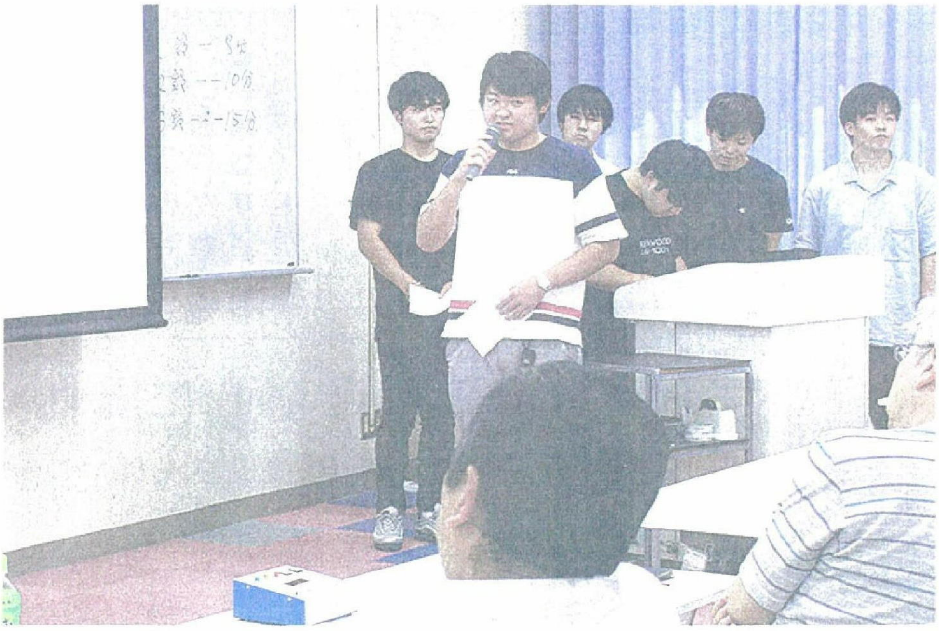
袋井市の静岡理工科大で、市の冠講座「地域学」（全四回）の最終回があり、学生らが「袋井に観光客を呼び込む方策」について提案した。人工知能（ＡＩ）や会員制交流サイト（ＳＮＳ）の活用などさまざまな意見が出た。

学生は一、二年の二十八人が六グループに分かれて調査、研究。二〇一九年のラグビーワールドカップ（Ｗ杯）、二〇年の東京オリンピック・パラリンピックを契機とした観光振興策や、効果的、効率的な情報発信の方法などを議論してきた。

あるグループは、袋井は観光地として素晴らしいものがあるのに認知度が低いという課題を指摘。ＡＩを使った遠州三山などを巡る自動運転システムの導入など未来の観光のアイデアを披露した。別のグループは、ＳＮＳでの誘客を提唱。フォトコンテストの開催を通じてＳＮＳでの情報拡散を図り、袋井のＰＲにつなげていく方策などを提言した。

提案発表会には地元高校生も参加し、熱心に耳を傾けた。講座は、市と大学が結ぶ包括連携協定による取り組みの一環。今月七日に開講し、学生らはＪＡ遠州中央茶ピアや可睡斎を視察したり、グループワークで意見交換したりして、若者ならではの視点でそれぞれ政策をまとめた。各グループには、市の若手職員一人がアドバイザーとして参加した。

（土屋祐二）



袋井に観光客を呼び込む方策について発表する学生　袋井市の静岡理工科大で

この記事・写真等は、中日新聞社の許諾を得て転載しています